嚴重に身邊を護衛されて 八幡に歸つた白仁長官

黒色の將校マントに古い中折帽子を冠つて 「善後策も妥協案も持つてゐない」

再度罷工の報に接し急遽歸任の途につきたる白仁製鐵所長官は二十六日午前九時三十八分例の黒色の將校マントに古ぼけたる薄茶色の中折帽を無造作に頂きて軀を下關驛頭に現はしたり此處には遠藤長官、官房主事其他出迎へ福岡警察部よりは特に長官身邊警戒の爲め派遣せられたる私服巡査數十名護衛し門司水上警察署より差廻せる汽艇豐前丸に乘じて門司港へ用意せる「福第三十七號」の製鐵所の自動車内奥に身を潛め電車通りに沿うて八幡の官舍に向ひたり

豐前丸の船室に於て長官は往訪の記者に語る『今度の罷工は二十四日午後二時朝日新聞記者の訪問を受け始めて之を知り同二時三十分に至つて製鐵所からの報告に接したがそれによると前回よりも餘程險惡なやうであるから取敢ず歸任したのである 此の間唯山本農相と一寸面會したばかりであるから閣議ではどんな事が決つたかそんな事はちつとも知らない、従つて軍隊出動、高壓手段に出づる等のことに就ても承知して居ない 今回の罷工に就ても先般自分が八幡を立去る時尚ほ多くの不平分子が殘つて居るやうであつたから全然豫想しない譯ではなかつたがこれ程までに險惡に、且つ多人數の者が加はつて居やうとは思はなかつた、人足人夫等も前回に比して多數參加して居るだらう、或は過般の過怠金問題に胚胎しては居ないかとも思ふがそれは自分として悉く研究もしないからまだ考へても居ない 尚前回の罷工に際して製鐵所より回答した事が職工全部に徹底して居ないので再度の罷工を惹起したのではなからうかとも思ふ、が自分としてはそんな事はないと思ふ、現に職工側で頻りに自分の誠心誠意を疑つて居るやうだがどうも仕方のない事で彼等の所謂誠心誠意は其要求全部を承認した時初めてこれを承認される事になるだらうかと思ふ、非誠心誠意の實現は誠に難かしいといはねばならぬ 内閣殊に山本農相などのこれに對する善後策は固より承知して居ないが今日實行されて居る無期休業を職工側などでは其の日暮しの苦しい生活を脅威されるのみならず又製鐵所側**殊に國家に取つても棄て置かれない重大問題**であるからこのまゝに現在の睨合ひを繼續するといふ事は實に遺憾の事であるがこれ亦已むを得ない事で政府としてもこれに對して何等かの轉回策を講し雙方の間に於ける妥協點でもあればと思はぬでもないがさればといつて今日自分は其善後策及び妥協案を持つて歸つた譯でもないのでそれ等の事はいづれ今から委しく事件の眞相を究めた上の事にしたいと思つて居る云々』（門司電話）

憂慮すべき形勢

兩々相結んで解けず 極力主要機關部の維持

八幡製鐵所の主要部たる中央機關熔鑛爐の火を滅却するに於てはその損害莫大なるのみならず所内及び荒生田一帶の官舍町は點燈の途なく暗黒界と化し一層不穩の氣を濃厚ならしむる虞あるを以て製鐵所當局に於ては各重要機關丈けは他の一般工場を閉鎖するも是非共作業を繼續せざるべからずとし一般職工に對し無期休業を斷行せるも職工中の穩健分子若しくは所内在郷軍人團員等約五百餘名丈け入場せしめ此人數をして其爐の火を滅却せざる事に努めしあ居れりされば他の職工人夫連は假令生活費を得る道を斷たるゝとも目的を達する迄此罷業を續行せんとしつゝあるに拘らず一部の職工が軟化しつゝあるは怪しからぬことなりと憤慨し彼等をも是非罷業せしむべしと強硬なる説を爲すものあり今後尚數日休業を繼續するに於ては或はこれ等重要機關部に作業の職工人夫をも動かして罷業せしむるに至るやも知れず當局は一層嚴重に警戒しをれり二十六日朝入場せる職工職夫は總數約九百人なり因に無期休業の宣言に對し職工側に於ても善後策に憂慮する所あり二十五日夜勞働者は秘密會を開き種々講究する所あり職工對製鐵所の睨合ひは尚は繼續すべしと（八幡電話）

一日四萬圓

製鐵所が職工職夫に支拂ふ料金は一日總計約四萬圓なるが二十四日夜よりの休業により是等の金は殆ど全部職工職夫の懐中に入らず二十六日迄には約十萬圓だけ彼等の生活を脅かしたる譯なり從つて辛うじて其日々々を送れる大多數の者は無期休業の掲示を見て不安を感ずる事甚だしく殊に生活資料を調達し居れる製鐵所内購買組合も事件發生後は供給以前の如くならず強硬分子も初志の貫徹の運動費の出所に窮し或は忌むべき事態を惹起せずやと憂慮し居る者多し（八幡電話）

次長に逆襲さる

深夜代表者との會見

罷業事件に就き勞友會長代理加藤勘十、友愛會九州支部幹事藤岡文六、木村錠吉の三氏は實行委員七名と共に二十五日深更十二時中川次長を製鐵所の事務所に訪ひ今回發表せる無期休業の理由につき質問したるが中川次長の答辯は『前回の罷業の際は就業したるも夫れは事實就業にあらず純然たる怠業なりき製鐵所としては其の處置に困惑し頗る迷惑を嘗めたるに鑑み今回は事業開始と共に職工職夫等が全く眞面目に就業する見込み無ければ休業するの外なし』と語り同次長は委員に向つて反對に質問し『君等は二十四日夜數山公園に集合したる際其の目的を貫徹するまでは斷じて就業せずと決議したるにあらずや』と逆襲し之れに對し加藤勘十氏は『其の決議は即ち其當日のみの作業中止に過ぎず』と答辯せり兎に角委員は歸任せる白仁長官と面會の上交渉するの約束をなし二十六日午前零時三十分引上げたり

殺氣漲る

前項中川次長との會見の顛末報告演説會は八幡劇生座に於て二十六日午前十時より開會、藤岡、加藤、木村氏の外富永尚城氏等交々起ちて當局の誠意なき答辯を報じたるが傍聽者は午前七時頃より踵を接して詰めかけ定刻既に滿員にて其數二千名尚別に同時刻八幡座に於ても演説會を開會前記辯士出演し詳細に報告、是亦滿員にて聽衆は何れも緊張し元氣の餘り不穩の言辭を弄する者あり警官の警戒物々しく殺氣場内に漲れり（八幡電話）

女房連の心配

罷業以來再び不安の胸を撫で各其の夫の身の上を案じ居れる製鐵所職工等の女房連は井戸端會議を至る所に開き居れるが彼等は憂ひの面持しながら記者に語る『どうも亦飛んだ事が湧き上りました私共は一向成行を知りませんので一日も早く元の状態に復して仕事を始むる様に一同も夫れ許り案じて居ります何でも製鐵所は無期休業とかで何日開所されるか分らんとの事ですが是迄やつと其日を凌いできた渡世帶ですから貯蓄が有ると云ふのではなし皆々多くの家族を抱へて居るので是から先きを考へると心細くなりますけれども亦男の意氣地としても今更どうすることも出來ますまいと思ひますから今後のことは成行に任す外はありますまいと淋しい顔に涙を浮べて居た（八幡電報）

市民動搖

市長の告諭

八幡市に於ては今回の製鐵所對職工の勞働運動に對し頗る憂慮する所あり堀口市長は廿六日午前九時より市會議員各區長を議事堂に招集し協議する所あり同時に一般市民に對し左の諭告を發布せり

製鐵所對勞働問題に胚胎する再度の罷業事件を出したるは遺憾とする所なり殊に條件の要求を滿すに暴力を以てするが如き不穩の手段を敢てするが如きは斷じて慎まざるべからず公秩の維持保安に關しては當局官憲の保護警策に信倚して市民は宜しく各其業に安んじ輕擧其事に共鳴するが如き不穩の行爲なからん事に注意せられたし

右に關し堀口市長は語る『市役所としては今回の罷業に對して全市六部の消防隊四百餘名を出動せしめ警官と協力し萬一の爲徹宵警戒を行はしめて居る』（八幡電話）

軍隊出動の虚報

小倉師團より一個中隊の將卒が二十五日夜九時半出動せりとの虚報を傳へたる新聞紙あり右につき齋藤福岡縣警察部長は語る『吾々警官の手で秩序が保たれないと云ふなら軍隊の出動を要するけれ共昨今の狀態では警察官を以て十分秩序を維持する確信を有してゐる演説會も前日に比し非常に靜穩であつた、白仁長官も歸られた事であるから遠からず何とか解決の曙光を見るであらう云々』（八幡電話）

拘留七日

二十五日午後より夜半に亙り旭座前其他諸所に於て警官の制止を聞かず檢擧されたる職工職夫は山本利一、飯塚次郎吉、花田平三郎、木下龍之、相良助作、池田留五郎、村上龍五郎、竹内藤十、工藤勇雄、大澤小松、西米藏、中武松等にして八幡署にて徹宵取調を受けたるが孰れも拘留七日に處せられたり尚同日製鐵所附近にて朝鮮人劉鍚祿（二十九年）は煽動の廉にて一旦八幡署の取調べを受けたるが二十六日放免されたり（八幡電話）

徹底的命令

不逞鮮人に對する 京畿道第三部長の聲明

千葉京畿道第三部長は三月一日を期して獨立運動あるべくとの情報は確に接受し形勢を認むるを以て斷乎たる決心にて不逞運動に臨むべしと前提し左の如く聲明せり

學生が一齊休校をなしたる際は獨立運動に共鳴せるものと認めて悉く檢擧す、市内の商店にして一齊に閉店し治安に妨害ありと認むれば假藉なく檢擧す、天道教にして又獨立運動に參加せば解散、財産沒收も辭せず、茲いて孫秉熙の罪狀を重からしむるに至らん、此の事は代表者二三名に嚴達し彼等をして不參加を聲明せしめたり、外人に對しても若し煽動的の所爲ありと認むるなれば遠慮なく告發する旨を各國領事を經て注告し置きたり（京城電報）

牧師檢擧

獨立運動發覺して

京畿道第二部發表＝忠清南道臨川郡水下面[illegible]北管理派クリスト教牧師金愁和（？）は京城鍾路警察に檢擧されたるが同人は布哇ホノルル移民の爲め二十四歳の時渡航し其後牧師となり在留鮮人に排日思想を唱傳し上海假政府に派遣され昨年九月始め上海に到着滿洲西伯利にて獨立運動の視察、通信事務をなし居りしが假政府内務總長李東寧の名を受け三月一日は獨立記念日なるより假政府にても活動すべきに依り朝鮮内にて策應して運動すべしとの命を受け民心の煽動と資金募集を企て一月始め京城に入り不穩文書の印刷頒布を計畫し布告我大韓國民と題するもの警告文と題するもの二通の原稿を作製し運動に着手せしも應募者なく煩悶中を鍾路警察署に檢擧されたるなり（京城電報）

普選の葬らるゝ日

蟻も通さぬ警戒網 日比谷に集る群衆 院内外の光景

普選の運命の定まる日は來た、二十六日日比谷へ／＼と午前十時頃から刻々群る人集りは音樂堂を遠捲にして警戒線を蹴にのた打つ、音樂堂は早くより警官隊が占領して重なり合つた制帽は耳が生へて

大阪心齋橋

…盡力せる結果漸く午前七時同店を全焼したるのみにて鎭火せり同店…

…檢査をしましたが別に異狀もなかつたのですそれが檢査をしてから十日と經たぬにこの始末ですか

燒跡に假建